

第63回 Pitch to the Minister 懇談会“HIRAI Pitch” 議事概要

1. 開催日時・出席者等

- 日時：令和元年8月20日(水)13:00～14:00
- 場所：中央合同庁舎 8号館 10階 平井国務大臣室
- Pitch テーマ：パスワードレスで実現するセキュアな社会基盤の実現に向けて
- 招へい者：佐々木伸彦(ささきのぶひこ)ストーンビートセキュリティ株式会社代表取締役社長
- 出席者：平井国務大臣、三輪政府CIO(IT)、三角審議官、平井参事官(IT)、
三又局長(知財)、行松審議官(宇宙)、佐藤審議官(科技)、永井参事官(科技)、
池田企画官(科技)、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 佐々木氏からの説明

- 現在、インターネット上で展開される各種サービスについて、平均的なユーザーは 90 個以上のアカウントを保有しており、2020 年には1人あたりアカウント数が平均 207 個になることが予測されているなど、アカウント及びそれに伴うパスワードの管理が煩雑化し、また、日々巧妙化するサイバー攻撃もあり、結果としてアカウント管理の脆弱化が懸念されているところ。
- このような問題を解決するため、パスワードを不要とし、生体認証(顔認証や指紋認証)等による本人認証と公開鍵暗号方式によるセキュアなオンライン認証を提供するFIDO認証(Fast ID Online Authentication)を推進している。FIDO認証により利便性の向上とセキュリティの強化が図られるとともに、同認証方式は国際規格化されていることから、標準的な仕様として展開することが可能となる。
- 政府を含む情報システムの構築に当たっては、FIDO認証を前提とした仕様やガイドラインの作成が要件となることを期待する。

3. 質疑応答・議論

- FIDO認証に当たっては、マイナンバーカードのICチップを用いた管理も考えられることから、政府情報システムにおいてもこのような認証方法を推進することにより、マイナンバーカードのさらなる利便性向上が図られ、行政サービス自体がより便利に活用できるのではないかと、との意見があった。
- パスワードの管理もさることながら、ID自体の管理についても検討の余地がある、そして、多くのサービスにFIDO認証を採用し、シングルサインオン等につながるような仕組みの検討も有意義ではないかと、との意見があった。
- 本人確認(Identification)と本人認証(Authentication)は得てして混同されやすいので、その違いを十分認識した上で、より便利で安全な認証を検討すべき、との意見があった。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)